

令和3年9月18日(土)14:00から医療画像情報研修会が技師会研修センターを発信元にWebで開催されました。

今回は、AI(人工知能)の分野で一般化しているプログラム言語「Python」の基本についての講演とその活用事例についての会員発表、医療情報分野の視点から被ばく線量管理を考えることをテーマに行われました。

初めに北海道情報大学の上杉教授より「Python」でのプログラミングについて基本から非常にわかりやすく解説していただきました。プログラミングと聞いて難しそうと思っていたのですが、基礎の基礎から詳しく解説いただき、プログラミングでどのようなことが行われていて、それがどのように書かれているのか理解を深めることが出来ました。

次に「Python」をどのように活用しているのか2名の会員より会員発表していただきました。

Deep Learning 研究、台帳作成の効率化のために「Python」を活用することで技師の仕事の負担を軽減することができ、時間の有効活用ができていたと感じました。

後半は、東北大学病院の坂本先生よりDICOM規格と線量情報について講演いただきました。

現状とこれからについて詳しく解説していただき、線量管理について改めて考えることが出来ました。また、これからどのような対応が必要になっていくのか会員の皆様に情報提供できたのではと思います。

コロナ禍もまだまだ落ち着く兆しが見えず、Web形式でのセミナーや研修会が多いことと思います。今回は自宅からWeb参加しましたが、大きなトラブルもなく研修を終えることが出来ました。

AIと聞いて難しい分野と思っていましたが、基礎から学ぶことができ簡単なことからでも触れていけたらと思いました。また、線量管理についてはこれから自施設でどのようにしていかなければならないのか部署内で検討していかなければいけないと思いました。

JCHO 秋田病院 畠山 翔

